

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 前橋市国際交流協会

1. 事業の趣旨・目的

地域の国際化が進む中、前橋市でも多様な外国人が居住している。しかし、他の多くの地域と同様に十分な多言語環境には至っておらず、日本語非母語話者にとって、日常生活を満足度高く、安全に過ごすことは必ずしも容易ではない。そうした中、当協会は生活者としての外国人にとって身近な機関として、20年以上にわたり主にボランティア・ベースによる日本語活動を行なってきた。そして近年では、幅広いニーズを抱える外国人に対してボランティアの市民性を活かした支援の提供と、共に社会を共に作っていくという観点から両者が対等な立場で学び合えることを主目的に掲げ、実践方法を探求している。

その一環として本事業では、上記目的のもとに自主開発した教材の活用方法を含め、知識や理論的な学習と実践・分析を有機的に結びつけながら研修を進める。それらを通して、受講する個人および活動グループ全体の実践力を高め、必要に応じた改善ができる力を得ていくことを目指す。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

回／日時	開催場所	出席者	議題	会議概要
【第1回】 5月13日 14:30～ 18:00	前橋市国際交流協会事務局	(運営委員) 阿久澤和夫、泉純子 弥城節子、遠藤知佐 (補助スタッフ) 沼沢明美、原美雪	事業の目的・趣旨を共有し、事業の進め方を検討	・業務概要の説明 ・講座内容について ・全体のスケジュール ・補助スタッフの業務内容について
【2回】 6月10日 14:30～ 15:30	前橋市国際交流協会事務局	(運営委員) 小阿瀬達哉、矢嶋照雄 阿久澤和夫、泉純子 弥城節子、遠藤知佐 (補助スタッフ) 沼沢明美、原美雪	講座の全体スケジュールと広報の仕方を検討	・日程および会場の最終調整 ・公開講座(第1回、第13回)の内容調整 ・広報について

【第3回】 7月15日 14:30～ 17:00	前橋市国際交流協会事務局	(運営委員) 阿久澤和夫、泉純子 弥城節子、遠藤知佐 (補助スタッフ) 沼沢明美、原美雪 「その他、1名」	講座を開始するにあたっての具体的準備	<ul style="list-style-type: none"> ・受講申込者への詳細連絡の内容と方法 ・第1回(公開講座)と第2回について
【第4回】 9月8日 13:30～ 16:30	前橋市国際交流協会事務局	(運営委員) 阿久澤和夫、弥城節子 遠藤知佐 (補助スタッフ) 沼沢明美、「その他、1名」 (協力者) 設楽明伸、清水敏子	終了済み講座からの課題と今後の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎編の振り返り ・実践編の進めかたの共有
【第5回】 1月21日	前橋市中央公民館 4階40スタジオ	(運営委員) 小阿瀬達哉、 阿久澤和夫、泉純子 弥城節子、遠藤知佐 (補助スタッフ) 沼沢明美、原美雪 (協力者)清水敏子 (オブザーバー)野山広	終了済み講座からの課題と今後の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎編／実践編を振り返り、応用編への取り組み方を共有 ・本講座成果を受講者の個人的レベルだけでなく、活動グループ／組織レベルに発展させていく必要性の確認
【第6回】 2月22日	前橋市国際交流協会事務局	(運営委員) 阿久澤和夫、泉純子 弥城節子、遠藤知佐 (補助スタッフ)沼沢明美 (協力者)清水敏子	事業成果と課題の共有、および本事業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の持ち方、内容、参加者の学び、グループや組織の成果 ・今後の課題 ・今回の事業を踏まえ、来年度の活動のあり方について検討

【写真】



3. 講座の内容について

- (1) 講座名 実践力向上講座ーより充実した「生活行動支援と相互学習」を目指してー
- (2) 開催場所
 - ア 講義 前橋市中央公民館 5階学習室(第1回のみ群馬県庁舎 281A会議室)
 - イ 実習 前橋市中央公民館 5階学習室
- (3) 学習目標
 - ・生活行動支援と相互学習のために自主作成した活動用素材集『かけはし』(以下、『かけはし』と略す)を十分に活用できるようになる
 - ・自分の実践を分析し、必要に応じて改善できるようになる
 - ・地域の人や組織と協働し、当事者のニーズに合った問題解決ができるようになる
- (4) 使用した教材・リソース
中心となったもの:講師作成講義資料、『かけはし』
- (5) 受講者の募集方法
 - ・当協会会員向けニューズレターへの掲載
 - ・当協会および(財)群馬県国際観光協会のホームページ掲載
 - ・県内の国際交流団体、日本語教室、大学へのチラシ送付
 - ・市内図書館、公民館、生涯学習センターなどへのチラシ設置
 - ・県内報道機関各社への掲載依頼

連続講座受講者募集案内

平成 23 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業（文化庁委託事業）
前橋市国際交流協会（MIA）主催

「日本語ボランティア実践力向上 講座」のご案内

- ・地域の外国人住民や、外国人支援に関する組織やメンバーとも顔を合わせ、ニーズにあった日本語ボランティア活動を考えていきます。
- ・自分の日頃の実践を分析し、必要に応じて改善ができる応用力を身につけます。
- ・『かけはし』*を十分に活用するためのノウハウを身につけます。

*『かけはし』は外国人への生活・日本語学習支援と相互学習を目指して MIA で作成した活動用素材集です。

期 間 平成 23 年 7 月 24 日（日）～平成 24 年 2 月 4 日（土） 全 14 回

時 間 各日 午前の場合 10 時～12 時

午後の場合 1 時～4 時（★印は 1 時～5 時）

場 所 前橋市中央公民館（前橋プラザ元気 21 前橋市本町 2 丁目 12-1）

受講料 無料（ボランティア保険に加入していない方は 280 円が必要）

応募人数 15 名

応募資格 2 年以上の日本語ボランティア経験がある方

受講希望の方で、経験年数が 2 年に満たない方は事務局にご相談ください。

申し込み／お問い合わせ

お申込は 7 月 11 日（月）までに、電話かメールで下記へ。

<スケジュール> 公開講座は、応募資格に関係なく 1 回のみでの参加も可能です。（別添参照）

回	日 時	内 容
1	7 月 24 日（日）午後	【公開講座】地域の国際化と、これからの日本語ボランティア活動
2	8 月 6 日（土）午前	外国人の声を聞くⅠ（日本語習得編）
3	8 月 21 日（日）午前	コミュニケーションの基礎Ⅰ
4	8 月 28 日（日）午前	コミュニケーションの基礎Ⅱ
5	9 月 11 日（日）午前	日本語教材の基礎知識
6	9 月 17 日（土）午後	『かけはし』活用方法
7	10 月 1 日（土）午後★	『かけはし』を活かした実践準備
8	10 月 5（水）／8（土） *どちらか一日	実践と分析Ⅰ <実践>10:15～11:45 <分析>13:00～14:30
9	10 月 15 日（土）午後	実践の考察と、次回の実践準備
10	10 月 26（水）／29（土） *どちらか一日	実践と分析Ⅱ <実践>10:15～11:45 <分析>13:00～14:30
11	11 月 19 日（土）午後★	実践の総合考察
12	12 月 3 日（土）午後	外国人の声を聞くⅡ（生活関連編）
13	1 月 21 日（土）午後★	【公開講座】地域のネットワーク形成
14	2 月 4 日（土）午後	講座のまとめ

【担当講師】野山 広 先生 国立国語研究所准教授 (第 1 回、第 13 回)
古川 敦子先生 群馬大学留学生センター非常勤講師 (第 3 回)
井之川睦美先生 群馬大学留学生センター非常勤講師 (第 4 回)
池上摩希子先生 早稲田大学大学院日本語教育研究科教授 (第 7 回、第 11 回)
遠 藤 知 佐 MIA ボランティア・早稲田大学非常勤講師 (上記以外の回)

第1回(公開講座)参加者募集案内

平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業(文化庁委託事業)
前橋市国際交流協会主催「日本語ボランティア実践力向上講座」企画

<公開講座> 「地域の国際化と、 これからの日本語ボランティア活動」

講師：野山 広 氏 (国立国語研究所准教授)

野山広氏は、文化庁文化語部国語課(日本語教育調査官)在職時から、在住外国人に対する日本語学習支援の充実に関するさまざまな事業および研究に携われ、この分野を牽引してこられた第一人者のお一人です。グローバル化とともに、地域社会でも国際化が進みつつあります。外国人と共に暮らしていく日本社会のこれから、行政に期待されること、市民レベルでの交流や日本語ボランティア活動の可能性などについて、直接お話を聞くことのできる貴重な機会です。

現在、日本語ボランティアをしている方や活動に興味を持っている方だけでなく、地域に暮らす外国人住民の皆様、外国人支援や多文化が共生できる地域作り等に携わっておられる、または関心がおありの方など、是非ご参加ください。

<日 時> 7月24日(日) 午後1時~4時

<場 所> 群馬県庁舎 281A会議室

<参加費> 無 料

<申込方法> 7月20日(水)までに、電話かメールで下記へお申し込みください。
氏名・住所・電話番号(・ご所属がある場合は団体名)をお知らせ願います。

前橋市国際交流協会事務局

TEL:027-243-7788 E-mail:mia@peach.ocn.ne.jp

★「日本語ボランティア実践力向上講座」へ申込済みの方は公開講座への申込手続きは不要です。

来年1月21日(土)には公開講座(第2回)として、
多文化共生社会に向けたネットワーク作りの会を企画中です。
こちらも、ご期待ください。



<後援> 群馬県・前橋市・前橋市教育委員会

平成 28 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業（文化庁委託事業）
前橋市国際交流協会主催「日本語ボランティア実践力向上講座」企画

<公開講座>
「地域のネットワーク形成
ー外国人の日本語習得支援をめぐるー」

講師：野山 広 氏

国立国語研究所日本語教育研究・情報センター准教授
政策研究大学院大学客員教授

「外国人にとって住みやすい街は、日本人にとっても住みやすい」、そんな街づくりを実現していくために必要なネットワークを考える講座です。

当日は、前橋市職員からの前橋市の外国人支援策や、学校教育関係者からの日本語指導を必要とする児童生徒の状況についての報告も予定しています。

意見交換をしながら、日本語ボランティア活動・外国人支援・街づくりなどに関わる人たちのネットワーク作りの契機にしていきたいと思っております。外国人住民の方はもちろん、ちょっと興味があるという方も歓迎です。ぜひ、ご参加ください。

<日 時> 1月21日（土）午後1時～5時

<場 所> 前橋市中央公民館（前橋プラザ元気21）5階51学習室
住 所：前橋市本町2丁目12-1
駐車場：北側に立体駐車場有り
駐車券を会場へ持参ください（5時間まで無料）

<参加費> 無 料

<申込方法> 1月20日（金）までに、電話かメールで下記へお申し込みください。

前橋市国際交流協会事務局

TEL:027-243-7788 E-mail:mia@peach.ocn.ne.jp

必要事項：氏名・住所・電話番号（ご所属がある場合は団体名）
★メールの場合は、件名を「公開講座申し込み」でお願い致します。



- (6) 受講者の総数 17 人
 (出身・国籍別内訳 日本 16人, 韓国 1人)
- (7) 開催時間数(回数) 41 時間 (全 14 回)
 講義 19 時間 (7 回)、実習 22 時間 (7 回)
- (8) 参加対象者の要件
- (9) 講座内容

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名/学習内容	講師
①	7月24日 13:00~ 16:00	3時間	17人	地域の国際化と、これからの日本語ボランティア活動(地域日本語活動概論)	国立国語研究所准教授 野山 広
②	8月6日 10:00~ 12:00	2時間	13人	外国人の声を聞くⅠ(日本語習得編)	早稲田大学非常勤講師 遠藤 知佐
③	8月21日 10:00~ 12:00	2時間	14人	コミュニケーションの基礎Ⅰ(「やさしい日本語」)	群馬大学非常勤講師 古川 敦子
④	8月28日 10:00~ 12:00	2時間	16人	コミュニケーションの基礎Ⅱ(発話を引き出す/維持するスキル)	群馬大学非常勤講師 井之川 睦美
⑤	9月11日 10:00~ 12:00	2時間	14人	日本語教材の基礎知識	早稲田大学非常勤講師 遠藤 知佐
⑥	9月17日 13:00~ 16:00	3時間	12人	『かけはし』活用方法	早稲田大学非常勤講師 遠藤 知佐
⑦	10月1日 13:00~ 17:00	4時間	14人	『かけはし』を活かした実践準備	早稲田大学教授 池上 摩希子
⑧	10月5日 10:15~11:45 13:00~14:30	3時間	15人	実践と分析Ⅰ	早稲田大学非常勤講師 遠藤 知佐
⑨	10月15日 13:00~ 16:00	3時間	10人	実践の考察と、次回の実践準備	早稲田大学非常勤講師 遠藤 知佐
⑩	10月26日 10:15~11:45 13:00~14:30	3時間	11人	実践と分析Ⅱ	早稲田大学非常勤講師 遠藤 知佐
⑪	11月19日 13:00~ 17:00	4時間	12人	実践の総合考察	早稲田大学教授 池上 摩希子
⑫	12月3日 13:00~ 16:00	3時間	11人	外国人の声を聞くⅡ(生活関連編)	早稲田大学非常勤講師 遠藤 知佐

⑬	1月21日 13:00~ 17:00	4時間	15人	地域のネットワーク形成	国立国語研究所准教授 野山 広
⑭	2月4日 13:00~ 16:00	3時間	10人	講座のまとめ(学びを振り返り、今後につなげる)	早稲田大学非常勤講師 遠藤 知佐

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート(回答者-16人)

Q1. 講座の設定について

(1) 時間と回数について (N=16)

多い-1人 やや多い-9人 ちょうど良い-5人 やや少ない-1人 少ない-0人

(2) 期間について (N=16)

長い-2人 やや長い-12人 ちょうど良い-2人 やや短い-0人 短い-0人

Q2. 講座の内容について

(1) 講座全体で取り上げた事柄について (N=16)

とても良かった-13人 まあまあ良かった-3人
あまり良くなかった-0人 良くなかった-0人

理由(自由記述):

- ・ボランティア活動全体の展望・実際の実践・外国人からの声を聞くなど色々な角度からの内容だったので。
- ・社会背景の理解、外国人とのディスカッション、日本語ボランティアとして必要な知識習得のバランスが取れていた。
- ・公開講座で話せる雰囲気作り、次に外国人の声を聞き二人の先生のお話(やさしい日本語で伝える、聞き出す発話)、教材、かけはし活用法、そして2回の実践(これができたのはとても役立った)と分析(特に皆で一緒に分析していろいろな意見をきくことができたのは今後につなげていける)。そしてネットワーク形成へと、とてもよく練られている、すばらしい講座内容だった。
- ・ボランティアにとって身近な事柄だったこと。それぞれの回を重ねていくことでのわかりやすさ。
- ・受講者が全く受身の座学ではなく、実習があったため、残るものが大きかった。
- ・外国人と交流する際に注意する基本的事項を再確認できた。
- ・専門家の先生から直接話を聞く機会が持てた。

- ・実践の振り返りで、自分の活動の再確認ができ、改善点が見つかった。
- ・外国人の人から普段の活動ではなかなか聞けない生の声を聞くことができた。
- ・野山先生の講座で、外国人に日本人から「あいさつ」や「言葉をかわす」ことや、学校でのコミュニケーションの実践など、スクリーンを通じて他地区の実例を知ることができ参考になった。
- ・内容がよく考えられていた。
- ・実際の活動に役立ちそうだ。
- ・実践を支える事柄と実践そのものがバランスよく含まれている。
- ・オリエンテーションから地域とのネットワークまで、多様な内容が出来てとても良かったです。特に実践と分析を通じてボランティア活動を実感した。
- ・日本語会話の十分でない外国人の立場に立った内容であった。
- ・実際に、日本に住む外国人の生の声が聞けた。たくさんの知識を得られ、良い経験ができた。
- ・T町での活動なので、前橋の日本語教室の様子を見ることができて、とても勉強になった。また、私はボランティア経験も浅いので、教材や対応の仕方など、まだまだ未熟でこれからの活動に今回の講座で得た知識を活かしていきたいと思った。
- ・実践編で授業の録音をした後で検討会を行う方法は新鮮さを感じた。実践編は1回のみのお出席でしたが大変参考に成り、2回目も出席してみたかった(時間を間違えて出席できず)。他者の教え方、自分の教え方など善し悪しが分かりやすく大変参考になった。

(2) 講座内容のわかりやすさ (N=15、回答なし=1)

よくわかった-10人	まあまあわかった-5人
あまりわからなかった-0人	わからなかった-0人

Q3. 受講前と比較して、講座から学べたことや得られたと思うこと

(* 自由記述による回答を整理し、内容ごとにまとめア～カに分類した)

ア. 『かけはし』の活用に関して

- ・かけはしを使う楽しさがより一層強くなると同時に、もっとたくさんの人たちに使って欲しいと思う。そして、かけはしは生活に根ざした素晴らしい素材であると改めて実感した。
- ・かけはしの使い方がよくわかるようになった。
- ・かけはしの活用方法と多様な教材の分析や使い方について学んだ。
- ・実践編が特に印象に残った。
 - * かけはしの使い方、学習者の勉強の把握の仕方
 - * 授業の録音、後で検討会の方法
 - * マンツーマンの良さ

イ. 自らを客観的に捉える／改善点に気づく

- ・クラスにおける自分のしゃべり方を客観的に聞いて反省点が見つかったこと。
- ・自分自身の日本語ボランティアのとき、迷いが以前ほどなく、客観的に自分の対応の仕方を見直す姿勢ができたと思う。
- ・実践、分析、考察の回を終え、活動を文字にすることの大切さを実感した。
- ・実践の振り返りで、自分の活動の再確認ができ、改善点が見つかった。

ウ. 自分の実践の変化

- ・受講前より相手の発話を「待つこと」がだいぶできるようになった。
- ・外国人の気持ちをより一層慮れるようになった。
- ・自分の日本語の発声に注意するようになった。それで、学習者がききとりやすくなったかどうかは不明だが、こちらはいつも明瞭に発声しようと意識するようにはなった。

エ. 活動観の変化

- ・講座を受ける前は、主旨がよく理解できませんでした。受講していくうちにだんだんと理解できた。私達ボランティアは外国人と十分にコミュニケーションを交えて、悩みや仕事のこと、子どもの教育のことなどに耳を傾けることが必要である。
- ・日本人の立場ではなく、外国人の立場に立った教え方をすること。
- ・外国人が日本に馴染んで暮らしていくことの難しさー私達が思う以上にー言語習得よりも、その国の文化・習慣、考え方を理解するのが難しいということ。

オ. 日頃の活動の外への意識の広がり

- ・地域の日本語教室と自治体と学校がより緊密に連携して外国人とのより良い共生を目指していきたいと思った。
- ・日本で生活している外国人は、日本語でもいいから日本人に話しかけて欲しいと思っていることがわかった。
- ・地域に住んでいる外国人を、より身近に感じられるようになった。
- ・外国人に日本語学習の支援活動(プログラム)をもっとアピールできるネットワークの必要性を感じた。

カ. その他の多様な学び

- ・外国人と交流する際に注意する基本的事項を再確認できた。
- ・外国人の抱えている思いや問題に対して理解が深まった。その他に、他のボランティアさんの考え方や活動を知って大変参考になった。
- ・公開講座Ⅰ(第1回)、Ⅱ(第13回):「共に生きる」ということについて考えることができた。
第2回:外国人がどんな思いをもって日本で暮らし、日本語教室に通ってくるか知ることができた。第9回実践の分析:色々な観点からの工夫がわかり参考になった。
- ・前橋市のJSL児童生徒への教育保障の様子を知ることができた。

Q4. もっと知りたいこと、今後、取り上げて欲しいと思ったこと(自由記述)

(* 自由記述による回答を整理し、内容ごとにまとめア～オに分類した)

<p>ア. 自身の日頃の活動への参考として</p> <ul style="list-style-type: none">・日本語初級者、特に全く知識ゼロの学習者への対し方につき、できればもっと勉強したいと思った。
<p>イ. 日本語ボランティア活動のバリエーションに関して</p> <ul style="list-style-type: none">・どこに、どのような日本語ボランティアが活動しているのか。・地域と都会の日本語教育に対する取り組み。・地方では、外国人に方言をつかたり教えたりするのか。・高崎や伊勢崎、太田など他の市町村の国際交流の活動について発表などがあると勉強になると思う。・群馬県内の日本語教室の活動の特色、実態(各地域の特色等)・他県での外国人とコミュニケーションのし方や問題点、接し方等があれば、紹介してもらいたい。
<p>ウ. 外国人の立場から考えられるために</p> <ul style="list-style-type: none">・県内に住む外国人が抱えている問題など。・市の相談窓口を訪れる外国人の方々の問題にはどんなことがあるのでしょうか。それらをヒントにして、日本語学習の支援ができればと思う。
<p>エ. 当協会の従来から領域を広げようとするもの</p> <ul style="list-style-type: none">・親と一緒に来日した子ども達への日本語教育:マイノリティの子どもが自信を持って生活していけるような手の差し伸べかたなど。
<p>オ. ネットワークに関するもの</p> <ul style="list-style-type: none">・地域とのネットワーク形成と外国人とのコミュニティについてもっと取り上げてほしい。・外国人も日本人も仲良く暮らせる地域社会の構築をどうしたらよいか。行政も一緒に考え、話せる場や機会がもてたらよいと思う。・市・県・MIA・国の専門の人とパネルディスカッションを時々してもらいたい。・自治体側の外国人居住者に対する対応と問題意識について知りたい。

Q5. 感想や意見、提案など

(* 自由記述による回答を整理し、内容ごとにまとめア～カに分類した)

<p>ア. 内容に関する肯定的意見</p> <ul style="list-style-type: none">・非常に勉強になった。・とても有意義な内容でした。いろいろな方と活動をともにできたことがとても有難かった。・素晴らしい講座を 14 回も本当に有難うございました。幸い全て出席させていただき、とても勉強になった。今後のボランティア活動に活かしていけたらと思う。
--

- ・今回、外国人受講者があり、日本人だけでは気づかないようなことを度々聞くことができたのは貴重な体験だった。
- ・14 回におよぶ講座シリーズ、有難うございました。私自身、一部しか参加できませんでしたが、第13 回の公開講座は興味深く外国人との関りかたについて考えさせられた。
- ・毎回充実した内容だったので、初心の人もベテランの人も、その人に応じて学ぶことが多かったと思う。
- ・「かけはし」を使っただけの前橋市の日本語教室はとても楽しかった。まだまだ手さぐりのボランティア活動ですが、地域の外国人と少しでも楽しい時間を共有できるよう活動していきたいと思う。
- ・ボランティアという枠の中で、実践されている方々の熱意を感じられ、素晴らしいと感じた。
- ・受講者同士の中で意見交換する機会がたくさんあって、ボランティア経験者のお話をきくことができ、刺激を受けた。

イ. 期間・回数について

- ・回数の割に期間が長いように感じた。
- ・実際に参加してみて、講座の期間が長かったこと、曜日や時間が不規則だったのは少々不便を感じた。
- ・もう少し回をしばってコンパクトにできればいいなと思った。
- ・平日・土・日等の出席可能な時間の工夫や学べる内容をより明確にすることで、出席したい人を把握して、曜日を定めるということは、やはり難しい。

ウ. 受講条件や広報について

- ・この講座に、もっと多くのMIAの日本語ボランティアさんに参加してもらいたかった。
- ・できればもっとたくさんのボランティアさんに1 回でも出席していただけたらと思うと残念。1 回でも良いと(内容も含めて)アナウンスしていったらよかったかと思う。
- ・受講条件があり、参加をためらった人がいたとしたら残念に思う。
- ・受講を終えると、どの回もとても良かったと思うが、受講前に何をやるのかわかりにくかった。また、全体の回のつながりも、終えてなるほどと思えるが、チラシの文言だけでは具体的な内容が推測しにくい。そこがわかりやすいと、受講者も申し込みしやすいのではなかとと思う。良い講座だったのもっと多くの一つに受講して欲しかった。
- ・後半になって、講座のことを知らないボランティアさんの多さに気付き、残念に思った。

エ. 内容についての提案

- ・もう1~2回位実践が入っても良いかと思った。
- ・外国人のため多様な応援システムがあることを知ったが、受ける立場になる外国人が積極的に参加出来るようなネットワークを構築する活動も並行して欲しかった。

オ. 他者との共有について

- ・特に、基礎編の中で学んだことは日本語ボランティア活動をする人には是非心得ておいて欲しいことなので、これらを何かの方法でより多くのボランティアさんに伝えるべきだと感じた。
- ・講座に参加したボランティアさん達にとっては得難い勉強の機会であり、得る物も大きかったと思

う。しかし、参加しなかった人は今までと変わらない。とすると、両者の間には活動に対する意識の差が広がってしまうのではないかという危惧を感じた。

・講座に参加しなかった人に何かシェアできるまとめのようなものができるといいと思った。2 年未満の方には特に必要と思う。

カ. 今後の発展に向けて

・この連続講座から気づいた問題点や活動のあるべき姿をもう一度精査して、一つ一つ解決策を作っていく。第2ステップ、第3ステップ、第4ステップと継続してほしい。きっと素晴らしい活動／組織になると思う。

② 実施主体からの研修内容結果評価

上記アンケート結果を基に評価を行なう。

まず、Q2(1)では、本講座に内容について全員が肯定的評価をし、8割以上が「とてもよかった」と回答している。Q2(2)の講座のわかりやすさについても、当協会の現役ボランティアで継続して参加した受講者全員から「よくわかった」との回答を得ており、当協会での活動目的や方法を良く知る受講者にとっては、満足度は総じて高かったと言える。ただし、他団体からの参加者や外国人、経験の浅い人達など 5 人はわかりやすさについて「まあまあわかった」との回答であった。そのため、受講者の各背景に合わせ、より理解度を高めるための個別のフォローを一層丁寧にする必要が喚起された。

また、本講座ではQ1(2)より、実施期間を「やや長い」と感じた人が多かったことがわかる。実際に講座が約半年間にわたったため、受講者の事情が変わり参加継続が困難になったケースもあった。他方、成人の場合、新しい知識や方法を理解し、行動に反映させていくためには、ある程度の期間をもって実践と内省を繰り返していく重要性も指摘されている。今回は、そうした知見を活かしたものであり、結果としてQ3で記載したように受講者の学びが非常に豊かであった点も見逃せないだろう。今後は、Q5-イの自由記述にあるように曜日・時間帯・回数・期間に関して、長期にわたる研修から得られる効果とのバランスを鑑みて、受講者にとってより良い設定を検討していきたい。

続いて、本講座の目標に対する評価である。本講座では「生活行動支援と相互学習のための素材集『かけはし』を十分に活用できるようになる」「自分の実践を分析し、必要に応じて改善できるようになる」「地域の人や組織と協働し、当事者のニーズに合った問題解決ができるようになる」を目標にしたが、Q3・Q4での記述が示すように、十分な成果があったと考える。研修を進めるにあたり、当協会の日本語活動が目指す「外国人への生活行動支援」と「相互学習」という日頃の活動目標に加え、それらを地域レベルの連携により実現していくためのネットワーク構築まで、回を経るに従って段階的に到達できることを意図した組み立ての効果とも言えよう。一方、Q5-オが示すように、今回、講座に参加できなかったボラ

ンティアとの内容の共有は課題であり、研修成果を今後のグループ活動全体に波及させていく必要がある。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

本講座では、できるだけ外国人の視点から支援を考えることができるように外国人住民の声を直接聞く機会を多く設けている。その結果、第14回の講座のまとめでは、受講者から外国人の声を反映させて「日本語活動以外の身近な交流の場の一層の充実」「外国人住民への情報提供方法の工夫」など、具体的に今後、日本語グループおよび協会レベルで取り組む課題の整理が為されている。それらを来年度以降、着実に実行していきたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

- ・本事業により、市の担当者や学校関係者を囲む機会が初めて実現し、市役所・自治会レベル、学校と連携して生活者としての外国人への支援の充実を図る基礎を得られた。
- ・外国人相談員から本事業への協力を得たことにより、外国人住民が抱える課題をより深く理解することができ、今後も協力して解決に取り組むための関係を深めることができた。
- ・多文化共生を目指す社会においては、日本語のみでなく多言語対応の重要性が共有できた。その結果、当協会の通訳・翻訳ボランティア事業との連携を図る動きが生まれつつある。

② 研修後の人材活用

- ・平成24年度には受講者を中心にして、日本語ボランティア希望者や経験の浅いボランティアを対象とした短期の入門講座を行なう予定。
- ・当市の日本語活動は現在、中央公民館が中心である。今後は受講者を中心に、必要に応じて自治会に出向き、その地区に住む外国人に密接した内容での講座が実現できるよう準備を始める。

(12) 今後の課題

本事業を通して、行政や学校関係との連携が生まれ始めた。また、当事者である外国人の協力も多く得られ、外国人相談員や他団体などとの関係も深まった。これらは大きな成果と言える。しかし、一過性なものに留めずに、今後も関係性を維持し、協働を具体的に積み重ねていくことで、活動の社会的意義をより高めいく必要がある。

ところで、当協会の日本語活動は、誰もがボランティアとして参加できる小グループ形式と、講師が担うクラス形式の2形態を持つ。本事業を含め、これまで小グループ形式については目標・実践方法の共有が進んできたが、今後はクラス形式の活動についてもそれらを明確にし、グループ形式とクラス形式を連携させて当市の日本語活動を充実させていくことが課題と

なろう。外国人住民の日本語習得と十全な社会参加を促進するうえで不可欠な点である。

また、これまで当協会事業では主として成人の外国人に着目してきたが、地域には日本語学習を必要とする児童・生徒も少なくない。よって、学校関係者と連携して年少者に対する日本語習得支援の充実についても取り組んでいく必要がある。

最後に、本事業は日本語ボランティアの有志が企画・運営の全般を協力して担ったが、自らの学びのためだけでなく、ボランティアが主体的に活動改善を試みるものとして意義が高い。同時に、事業遂行にあたっては、協会組織・事務局・日本語グループ全体の協力が欠かせないものであり、ボランティアと事務局および組織がうまく連携することにより活動が展開・発展していくことを再認識する契機にもなった。今回の経験を踏まえ、ボランティアの主体性と組織としての強みを活かし、協会が持つリソースを十分に活用しつつ、より良く活動展開をしていくあり方も検討していきたい。